

序

興福寺は和銅3年（710）の草創で、去る平成22年（2010）、創建1300年を迎えた。当山では、この年の前後各10年つまり20年間を「興福寺創建1300年記念事業期間」と位置づけ、「天平の文化空間の再構成」を合言葉に、いわゆる第1期境内整備事業を鋭意進行中である。

本事業の最重要課題は、享保2年（1717）に焼失した中金堂の再建で、現在、平成30年（2018）秋の落慶を目前に、最終工程に入っている。

こうした中金堂の再建後ひきつづき、北円堂院の南門とそれに取り付く回廊を可能な限り復原する予定で、これらが整えば、興福寺の境内も、かつての雑然とした寺観をそうとう修正できるのではないかと考えている。

もとより、当山の境内整備は、この他にも行なうべき項目が多い。中金堂と北円堂に近い僧房や経蔵・鐘楼なども、その基壇表示が望まれるが、本書は、そのなか、西室および北円堂院（承前）の発掘調査の概報である。調査に当たられた奈良文化財研究所の各位に、謝意を表する次第である。

平成28年3月

興福寺貫首 多川俊映